

【平成 18 年 10 月 19 日（木）開催分】

午後 1 時 30 分～4 時 30 分

江南市民体育会館 2 階 大会議室

## 1. グループ別の意見交換から

### 【Aグループ】

#### 協働のイメージ

- ・よくわからない。今の正直な気持ち。
- ・協働の意味をはじめて聞いて、話し合いといわれてもわからない。
- ・協働について何も知らないなので、話し合いができない。
- ・目的はきれいなことばで言われるが、行政サービスを市民にまかせるという言い換えに聞こえる。
- ・今までボランティアの意見を聞いてもらえず排除されてきた。市民参画は今までもずっと言われてきたが、いまさらという気持ち。

#### 協働の実際

うまく行っている事例

- ・江南市女性交通安全クラブ
- ・みどりの風

大きなゴミがあった時行政にお願いするとすぐ片付けてくれる。「花いっぱい運動」も行政に助けてもらっている。

市に出かけ職員と顔を合わせて話し合うようにしている。

#### 不安

- ・あらゆる審議会での意見はどのくらい吸い上げられているのか。
- ・協働することによって、市民サービスの低下を招くのではないかが心配である。
- ・協働する内容に不安を感じる。
- ・江南市市政モニター、消費生活モニター、ごみ減量推進協議会等市役所内の委員会で提案される市民の声は、どのように反映されているか。
- ・高齢社会に対して、江南市は対策ができていない。災害が起きた時に高齢者は避難できない。
- ・市の公募委員はすべて江南市に住んでいるのか。江南市の住民でない職員が、市民と協働の話し合いができるとは思わない。
- ・協働研究会の委員は、市の考え方になっている。
- ・協働ということばを強調しすぎ。役所ことばでいうと通じない。

#### 期待

- ・行政が変革の可能性をみせており期待できる。

### 市への要望

- ・外国人在住者を含めた共生の立場の協働をつくりたい。
- ・市独自の自治条例ができるまで協働研究会は頑張してほしい。
- ・市民の声の生きる協働を！！
- ・高齢者、障害者の他に青少年にも目をむけてほしい。
- ・学校に来ない子どもに対するフォローは？学校、地域、家庭の連携は？
- ・各委員会の適切な人材の出席を望む。無駄な意見を言ったり、意見を言わない方の参加に疑問を感じる。

### 提案

- ・市民参加は民主社会では当たり前のこと。今さらと思うが、でもいいことだから前向きに考えよう
- ・青少年の「ゆとりある活動」の支援を。(キャンプ場づくり、集会場の提供など)
- ・災害弱者の支援こそ「行政と地域」の「協働」が必要と思う。

### 【Bグループ】

#### 協働の意義

- ・公共性とは市民みんなの利益になること。つまり、市民みんなが幸せに暮らすことができるようにすること。
- ・同じ目的 = 福祉にやさしい町にしようと共にがんばっても、市側が視覚障がい者の情報を出してくれないために、高齢化が進むばかりで若い芽が育たない。
- ・市民である以上、同じ目的のために協力して物事を行っていく、一人ひとりの考えが非常に大切だと思います。住みよいまちづくりの基本だと思います。
- ・各地域の中でお年寄りが生きがいにつながる(まちづくりのための)活動の場があるといいと思います。

#### 協働の目的

- ・市民と行政との協働は、コスト削減のためにやるものではない。
- ・市民の活動をコスト削減のために利用されたくはない。(合併の二の舞はゴメン)
- ・市議会へ市民参加を願う(市議会の明瞭化)
- ・市民協働で江南市の政策を決定できるシステムを設けたい。議会との関係など。

#### 協働の原則

- ・依存しない自立している主体が信頼関係の上に協力し合う。
- ・信頼の芽を育てる。
- ・活動の評価をするシステムも必要。協働の原則案に追加。
- ・指導はされたくないが、存在は多くの人に知ってもらいたい。

- ・立場の違いを認め合う気持ちが必要。
- ・協働していくためには実際に動いている現場を見て学ぶことも必要だと思います。

#### 情報

- ・江南市のボランティアは数多くあるが、行政主導ではないボランティアの方が多いと思う。それをもっと行政が理解することが第一の課題。
- ・情報開示がいつも個人情報保護で知ることができない。ボランティアを受けたい人がどの位いるのか行政が把握し働きかけをしてほしい。
- ・市民が行政に訴えるといつも市に対しての文句のように思われている。協働ということを行行政の中でしっかりと受け入れているかが心配である。

#### 協働の継続性

- ・協働を担うものの継続性、安定性。
- ・自立するために不足するものをいかに補っていくか。

#### 補助金など

- ・補助金を受ける市民団体は必ず領収書を添付して会計報告すること。特別なチェック制度が必要。
- ・自立した市民グループには補助金を出す必要はないと思う。
- ・助成金は視察より市民のために活動するボランティア資金に使ってほしい。

#### 市民参加の構成員

- ・市民参加のまちづくり委員会をつくりたい。
- ・市内全体または地域で年齢を問わず参加できるイベントの実施。交通安全、環境問題
- ・いろいろなNPO・ボランティアとの交流会で、もう少し何をしていて何が協働できるか知りたい。
- ・各区長、役員の参加も必要。
- ・協働の委員会は健常者ばかりではなく関連のある障がい者の意見も聞くべき。

#### まちづくりの課題

- ・地域の中で高齢者を支える。
- ・車椅子の通れる歩道の整備を。
- ・江南駅前の整備。
- ・市役所のオフィスが暗くてきたないので何とかしよう。
- ・市内のクリーン大作戦 統一日の設定。
- ・資源の再活用 100%回収
- ・園児に自由な発想で描かせて明るいシャッター通りにする。

### 特別提案・目玉

- ・小学生の登下校時の通学路周辺の住民参加（道に出るだけでも）
- ・エコマネーの活用またはポイント制度。お金では払えない気持ちを形にしたもの（地域通貨）

### 【Cグループ】

#### 協働のイメージ

- ・進んで参画する。
- ・協働は人と人が助け合うこと
- ・共存のイメージ 仲間
- ・ノーマライゼーション
- ・自分たちの住んでいるところなら、気になっている所から直していく。

#### 不安

- ・協働で市の財政は立ち直れるのか。
- ・江南で本当にやれるのだろうか。

#### 希望

- ・気がついたことからやっていく。
- ・小さなことの積み重ね。
- ・行政と市民の垣根が低くなる。

#### 課題・要望

まちづくり、環境

- ・子どもの居場所作り
- ・ミニコミュニティがたくさんあるとよい（場所が問題）
- ・保育園、学童保育所について 次世代プランにある民営化、子どもの受け入れについて
- ・お母さんたちの居場所作り
- ・協働で犯罪のないまちづくりを
- ・災害時の助け合い活動に協働の力を
- ・軽度障害児童について
- ・非行少年の問題
- ・循環型社会によってよい環境の町を作ることができる。

市民

- ・市と市民の負担について
- ・会の人数が多いので市のほうからやってほしい 場所があれば知らせてほしい
- ・財政の建て直しと市民主導とはいえ、お金がいるときはどうするの
- ・継続的な活動ができるよう場所作り、助成

- ・意見がきちんと言えること、聞いてもらえること
- ・地域にある施設を利用した活動が活発になる。
- ・お金（財政）ばかりでなく文化、人を育てることを忘れるな

#### 市

- ・市民、行政の役割分担でバランスのとれた方向性
- ・休耕畑の草取り（持ち主の老齢化）
- ・政治的なことに振り回されない
- ・市職員の参加
- ・市役所の意識の変化に期待します。
- ・お金（財政）ばかりでなく文化、人を育てることを忘れるな

#### 情報

- ・困っている方のこの指とまれ運動は（この指とは皆さんに助けってもらうこと）
- ・今回のような場を多く開いて協働のPRを
- ・若い人の参画を
- ・持続可能なボランティア活動が参加者増につながる。
- ・コーディネーターの充実が不可欠
- ・協働で町並み、清掃活動を行いきれいなまちづくりを
- ・市民、行政、企業でのよりよいコミュニケーション
- ・地域にある団体との横のつながりを大切にする。
- ・たくさんのネットワークが必要
- ・地域での集会の参加率を上げる。
- ・行政、市民、市民団体、ボランティアがそれぞれ皆で共に働きまた連絡しあうこと

#### 【Dグループ】

##### 協働のイメージ

- ・行政と市民が対等の立場で協力し合うこと。一方通行ではだめ、双方向性が必要
- ・役所と市民の考え方に差があるので、協働で縮まるように思う。
- ・協働により市民活動団体の特性を活かした効果的なサービスが可能になる。
- ・行政に対して圧力団体的になってはだめ。協働の理念ではないでしょうか。

#### 対等に協力

- ・市の計画立案のとき多方面の市民から参加があると協力しやすい。自分で出した案は実行しやすい。
- ・自分の得意の部門を互いに提供しあう。
- ・より住みよい市とするためそれぞれのグループが力を出し合う。

- ・全国的な問題や市内の問題に対して市役所と市民の話し合いができるために協働は必要

### 課題と要望

#### 情報の開示と共有

- ・ボランティアの定着がむずかしい
- ・市役所の個人情報が堅すぎる（必要な人を把握できない。視覚障害者の方を知りたい）
- ・市役所とのつながりはあるが、依頼されたことすべてに対応できない
- ・グループの若返り、活性化を図りたい
  
- ・各ボランティア・NPOを知る機会が少ない
- ・市民と行政が情報を共有することが必要（物、金、場所や関連団体の情報）
  
- ・予算の削減に寄与するという思いだけでは長続きしない。
- ・市民活動に対する助成制度
- ・予算がつきにくくなり活動がしにくい。
- ・会費制になっているが財政的に苦しい。

#### 研修と企画

- ・団体同士が連携できるよう交流する会を市が企画
- ・団体の運営マネジメントに関する研修
- ・市民側から協働事業を提案できる制度（行政サービスへの参入機会の提供）
- ・役所がどのような仕事をしているのかわからない。広報では全体的な予算や計画は掲載されるが、具体的な予算や計画がわかると協力しやすい。
- ・計画を実践のとき全部を業者に任せずともボランティア希望の人がいると予算の削減につながる。
- ・市職員が市民活動に積極的に参加することが必要

#### 場所

- ・いつでも自由に利用できる場所がほしい。他のグループとの交流の場としても
- ・印刷機の貸し出し
- ・活動場所を無償で提供してくれる人を探している。
- ・図書館をもっと利用しやすいようにしてほしい（古いです）
- ・経験のあるシニアのボランティアの活用

### 楽しくなくっちゃ

- ・義務感ではなく積極的に自分から参加する意識が必要
- ・楽しくなくてはボランティアではないという考え方は協働でも同じ

## 2. 全体での意見交換（発言）

<参加者> ワークショップで書き出した意見が、どのように生かされますか？ また、今後の協働研究会の取り組み予定はどのようになっていますか？

<事務局> 江南市を良くするまちづくりをめざして、どういうことをしていくか、どういう決めごとが必要なのかを検討していくのに、生かしていきたいと思っています。

今年度は、まちづくりをめざす市民協働のルールを決めます。来年度はそのルールを検証しながら、結果的に条例の制定に至るかどうか、どういうものがあるか、検討していきたいと思っています。

<参加者> 市役所で「NPO・ボランティアガイド」が出されましたが、何にもならん感じがしました。

20年以上ボランティア活動をしているが、市や「広報こうなん」は今も（私たちの活動に）振り向いてくれません。市がそっぽを向いているので自発的にやっています。そういうボランティアがいるということを知っていただきたい。これからは、市役所と市民との橋渡しができると思います。

<参加者> 2年間のルールづくりの後には、どのように進めていきますか。江南市は民間企業の成果主義を取り入れているが、すでに破綻したもの（手法）です。市民の自主的な取り組みは成果主義ではうまくいきません。2年後の成果とは何ですか。

<事務局> 2年後の成果とは何かと言われますが、市の方でルールが実際に機能することをめざします。

<参加者> 市は予算が無いというが、江南市に住んでいるので（税金の）相応の見返りが必要です。例えば、地域通貨の制度を提案します。アルミ缶を回収したら、地域通貨と交換するとか。児童館にはお金を払って利用しているが、それを地域通貨で払えるようにできるといい。

<参加者> こういう意見交換会には、北海道とか東北とか全国各地の出身の市民を集めてもっと対極的な意見を聞くように工夫したらどうでしょうか。

<委員> 先ほど協働の必要性について発表した私の文書は、コスモスの会の人たちを思い浮かべて書きました。池田町の施設も見学しました。高浜市や半田市も見てきました。私を育ててもらった近所のおじさん、おばさんが年をとってきたので、恩返しをしたいという思いで協働研究会に参加しています。

<参加者> 協働研究会がこの人数で設立されたのはどうしてか。市民10人は少ないのではないかと。職員の委員は2年でおしまいになって、その後異動でもしたら何にもならんのではないかと。

<会長> 職員は2年で終わりではなく、異動しても互いにチェックしあってやっていきたい。今日ここに参加された皆さんは、これを縁に、今後どういうルールができあがるのか、できたルールが機能しているか、などをチェックしていただきたい。そうなれば、職員の委員が異動しても、ルールがあるから逃げられないと思います。

[会議要旨（会議内容の概要）へ](#)